

新春マンガ②

福永道子

郵便遅配

元旦に着くなんて夢じゃないかしら？



名人

カルタ取は下手なくせにネ



トソ気嫌 トラの敷皮ザーマスのよ



金詰まりのお年玉
このパチンコ玉でキヤラメルでも
取ってきな

「元旦や去年の鬼が礼に来る」
それでも、大晦日は大変でしたね
次から次へと債鬼の襲来で、つい
に居留守を使うことになりました。
「留守だ。留守だ」と中からどな
っている中をのぞきこんだ債鬼
の一人「でもあんたはそこにいる
じゃあないか」「何をいうか本人
がオレは留守だといっているんだ
これほど確かなことがあるか」こ
もとも。朝っぱらから借金とり
がやってきてドアをたたきます。
「うるさいな、ドバキ君なら散歩
に出かけたよ」とドバキ君がいい
ました。「あんたが誰かぐらいは
声でわかりますよ。あけてくださ
い」そしてとうとう部屋へ入って
きて「それご覧なさい。あんたは
ウソをついた」ウソなんかつか
ないよ。留守だといったら留守だ
「でも、そこにクツがあります
よ」しかしドバキ君は借金をとりを
部屋の外へ押し出したしながら「朝
はね、ボクはクツをはかずにスリッ
パで出かけるのさ」ローラン君が
さんざハシゴをやって夜中にアパ
ートへ戻ってくると細君はよその
男と寝ているようです。「コラ
ッお前と寝ている男はだれだ？
「また酔っているのね。あんた
じゃないの」#そうか#と思った
ものの「それじゃ、ここに立って
いるオレはいったいだれだ？」

(T)

びんく・こーなー





初春に想う

陳舜臣

お正月が一番嬉しいのは、子供達である。年をとるにつれ、新しい年を迎える感激は、だんだん減るものらしい。仕事や身辺の雑事やらが気にかかって、新春の悦びに心をまかせ切ることができないのであろう。

子供は一つのことですぐ熱中することができる。ふりに没頭できたら、と子供達が羨しくなることがある。しかし、一つのことにならぬと、彼らはほかのことをすっかり忘れてしまうものだ。大人は忘れたいことが多いの、悲しいかな、頭のなから追い出すことがどうしてもできない。

まだ小学校にもあがらぬ頃、ぼくら一家は元町七丁目路地に住んでいた。御多分に洩れず、日がな一日遊び暮らしたものだ。むろん同年輩の日本人の子供達と同じく、日本語がしゃべれた。ぼくら一家は全員神戸に移っていたが、それでも当時はまだ故郷の台湾とは頻りに往來した。ぼくたち兄弟もときどき帰郷した。ところが台湾へ帰ると台湾語ばかり使うものだから、短期間のうちに日本語を忘れてしまう。生活の本拠はすでに神戸にあるのだから、台湾にあまり長居もできない。帰郷といつても、せいぜい一と月か二と月だったろうか。それなのに、言葉をつっかり忘れてしまうのだ。神戸へ戻ってく

ると、はじめのうちは日本語がなかなか思い出せない。そしてものの一と月ぐらいすると、もとのようにしゃべれるようになり、こんどは反対に台湾語のほうを忘れてしまう。今から考えると、その速度のはやいこと、驚くばかりである。一つのことと専念できたからであらう。そのかわり別のほうは、速かに忘れ去るのだ。

二つ年上の兄貴が小学校へ入る前、いちど旧正に帰郷して、戻ってきたのが入学の直前だった。さあ困ったことになった。当時台湾人は日本籍だから、義務教育として必ず日本の学校へあがらねばならない。ところが、日本語をだいたい忘れている。子供心にも兄貴はだいたいあせつたとみえ、いつもなら自然に覚えてしまうのにその時ばかりは積極的に学ぼうとしづらい。

ぼくたち兄弟が表通りへ出ようとすると、近所のいちめつ子に通せんぼされた「そこ退(ド)け」という言葉がどうしても思い出せない、以前によく使ったはずの言葉だから、もう喉元まで出かかっている。それなのに今一と息というところでひっかかっているのだ。ぼくたちは歯ぎしりしながら家へ退却した。あと数日すれば入学式である。兄貴はしよげ返ってしまった。あんなときに使う言葉さえ忘れているのだから、学校へ入ってからのこと

が思いやられる。ほくも兄貴と一しよに、困った困った、ときりに幼い頭を悩ませたのをおぼえている。

「そうだ、うまい方法があるよ。」

と、兄貴は台湾語で叫んで、目をかがやかせた。ほくたちはまた連れ立って、こんどは鉄道線路のほうへ出た。まだ高架はなく、汽車が地上を走っていた頃のことである。鉄道に沿った道には砂利が敷かれてあって、荷馬車や牛車が往来していた。当時トラックはあまりなかったように思う。宇治川の踏切が閉まると、荷馬車が何台もならんで待っていた光景が、いまでも記憶に残っている。

ほくたち兄弟は、この砂利道に面した酒屋の倉庫の軒下で待っていた。そこへむこうから牛車がごろごろ音を立てながらやって来た。ほくたちが待っていたのは、そいつだったのである。だいぶ近づいてから、兄貴はやにわにその前へとび出した。

「こらっ、そこ退(ド)け！」

手綱をとっていたおっさんがどなった。

「わかった、わかったよ。」

兄貴は小おどりしながら駆け戻ってきた。ほくもホッ

とした。ついに「そこ退(ド)け」という言葉を思い出したのである。手をとりあって、ほくたちは家へ引揚げた。

何かの拍子に思い出してみると、じつに他愛のない言葉で、そんなのをど忘れしていたのが不思議でならない。

二た月ほど前には、近所の悪童たちを相手に、さかんにこの「そこ退(ド)け」を連発したというのに。

子供の頃おぼえようと努力したのはこれ一回きりである。いつもしらずしらずのうちに会得してしまったとみえる。ほかのことに心をわずらわされず、ただひたすら友だちと遊ぶことに没入できた結果にちがいない。

指折りかぞえてお正月を待つ子供達をみると、ほぼえましくなる。かえりみていたずらに馬齢を加え、世の煩瑣な営みに年あらたまる感激もともかく薄れがちなわが身が、なにか可哀そうでならない。何かに打ち込めば、子供のよう和幸福になれるだろう。お正月に心から嬉しそうに顔をしている人たちを、ほくは尊敬したいと思う。そんな人は、ほくの目に何か一筋のものに生きているように見えるからだ。

(作家)



天王谷の朝風呂

木下

繁

六甲連山は神戸だけが持つ自然の財宝である。世界に誇る神戸の美観も健康な霧開気も、すべて六甲の山々がその源泉である。

豊かな水深と、底の固さで七つの海のマドロス達に親しまれているミナトも、宮水の功德でコクのある味を誇る灘の生一本も、赤道を越えても腐らないという自慢の飲水も、六甲の巨大な腹から生れ、又はこれあるが故に

発生したもののばかりである。

実に私は六甲の価値は、街の近代化のすすむに連れ一層発揮されるものと信じている。街の近代化ということは空にはチリ、アクタが充満し、地には自動車の洪水が起きることであって、裏返して見ると、街の表情が歪められ薄汚くなることであるが、その際、山肌の陰陽から起きる局地風が適当に空気の汚れを洗滌し自動車の流れ

に押し流された人の足は健康なそして深い懐を持つ山裾が吸収してくれるから他の都市に比べて神戸の美と健康は、偉大な天恵に保護されている訳である。

もう一つの六甲自慢——それは、あの巨腹に豊富な温泉の流れを持っていることである、天下の有馬はいうに及ばず、表六甲に、布引、天王谷、須磨等、ここ掘れワン／＼ではないが随所にいで湯の楽園がある。

私は、平野は天王谷のほとりに住んでいる。約一キロ程離れたところに温泉浴場が二つあって、下の方の天王温泉の朝風呂で一ときの愉楽の時間を持つのが日課の一つである。

朝風呂というものは仲々よきもので、冷たい水を、手桶で頭から五、六杯かぶってから、温かい湯に、深々と五体を沈めると、血が躍り上り乍全身を駆け廻って、爽快この上もない。昨日（昨夜かも知れんが）の疲れ等一度にふっ飛んで、「われ今生きてこゝに在り」といったようなよき心地がする。この温泉の客は大体常連である。

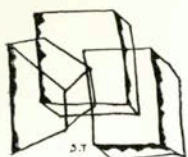
それも、時間で組が別れておって、五時、六時、七時などいろいろあるが、私は大体七時組で、泉友会という組織を作って、毎朝、やア／＼てな具合に気分よろしく笑顔を変している、会長らしきものは海運界の宿老、田中卯三郎さんで、もう卅年を越す泉歴の所持者である。連建は一通り揃っている。

なる泉友の面々には、医者、僧侶、神主、弁護士等道具職業は違っている、素裸の身になると遠慮気嫌もなくいろ／＼世間バナシに花が咲く。江戸時代の庶民に親

しまれた浮世風呂というのも、このような雰囲気だったかも知れない。今は湯女等と称する艶っぽいのはいないが話上手な人がいて、政治、経済、社会、スポーツ等、季節もの、話題が豊富に持ち出される。

私はもっぱら聴き役に廻って、冷水に濡らした亀の子束子で体をゴシゴシこすりながら、賑やかな世間バナシを耳にしていると、これも亦朝風呂の功德だなアと思う朝風呂の功德はそれだけでは無い。何せ一条纏わぬ一丁の群像だから、おのがじしん両親から授かった、神聖な男の芯棒をぶら下げている。この頃は手拭で前を押えたりするような不心得者はまずいない。正に豪華絢爛たる聖器の展示会である。バタフライを並べたような女湯の単純な風景とは比較にならない壮観である。歴然たる男女の差だ。

形体、ポリウムは千差万別で威風堂々辺りをへイゲイするような尊大なものあれば、泣き面をかいたような情ないものもある。又既に現役満期となって悠々と晩年を静に暮している御隠居組もあるし、全身は斗魂といったような物凄い現役の強者組もある。人間は着物を身につけると嘘がつき纏うが裸の世界に嘘偽はない。ハダカこそ人間本来の姿であって、そこにつぎるせぬ興味が有り、教訓がある。これも朝風呂の功德の一つである。私は六甲を語り、そこから湧き出る温泉の功德の数々を並べたてた。こんな天然の愉悦は、他の何処の都市でも味わうことは出来まい。六甲さんよ有難う。そして天王谷の朝風呂よ——ではこの辺で。（神戸市経済局長）



トラ年とタイガース 村山 実

「来年はおタクの年ですな。トラ年とタイガース。縁起がエエやおまへんか、ひとつ頑張ってくださいよ。

期待してまっせ」若い僕など別にエトがどうのってあまり気にならないがフアンとはありがたいもんで電車のかで見ず知らずの人がこう話しかけて、ボンと肩を叩いて出ていった。忘年会酒に酔っぱらってる風もなし、コチコチのタイガースなんだらう。おかしなもんでいわれてみればトラ年とタイガースといえはなんだかい予感が湧いてきて、あらためて「やるぞ」と気合がのってくる。ジnkスなど毎日毎日勝負のぼくたちにとつてあまり考えたくないことだが「いいジnkスならまあいいだらう」なんて虫のいいことを考えたがるものだ。

ところがジnkスといえはことしはあまりいい方の年じゃないんで少々気がかりなことがある。ぼくはことしでプロ生活四年目の春を迎えようとしているのだが、一年ごとに調子の波がやってくるような気がする。事実一年目はおかげさんで沢村賞をもらったり、まあ上出来のシーズンだったが二年目は内臓疾患やらあれやこれやでさっぱり。三年目はまた調子をとりもどしてなんとか二十勝することが出来た。この順番からいけばことしはあかん年かなとふと気になるときもある。だけどそんなこと気にしてたんで野球なんかやれっこありませんからな。かえってファイトが出てきていいようなもんで……。

そんなわけですしも正月といっても名ばかりで、エッチラオッチラとトレーニングをやるつもり。ちょうど家の近くが芦屋の海岸なんでトレーニングにはもっていいですからな。ぼくなど大体向う意気の強い方だから、なんといっても一番肝心なのはスタミナをつけること。下半身が弱くては話になりませんからね砂浜をザックザックと走ればその点いいトレーニングが出来る。学生時代からずつつづけているので、別に苦にもならない。

一般の家庭のように正月は家でゆっくりおトソでも戴いてのんびり一日を過ごすなどは考えたこともないし、第一胃がもたれて仕様がな。それよりはトレーニング

で身体を鍛えておく方が身体のためにもいいし、商売にもつながるのだから一石二鳥だ。正月そうそうから気ぜわしい話で恐縮だがスロー・スターターのぼくなどこのくらいにしてちょどいいかげん。なまけていたらとたんににおいてけぼりにされちゃう。

それに、ぼくは浜風をきいて走るとき、耳タブをジnkと切るような冷たさがおそうあの感触がまたなんともいへん好きなんです。実に気分が爽快になる。胸のなかのわだかまりが吐き出されるみたいでね。元旦の気分を味うのはこれが一番。

野球の話ばかりになるが、一つ温泉治療もやってみようと思う。学生時代に肩を痛めて、さっぱりダメになったことがあるが、あの時の気持ちといったらほんとうにたまらない。それで人一倍気をつかうのだが、ことしはキャンプ前にトレーナーの和田さんと一諸に温泉にも出かけて二、三日のんびり肩をもみほぐすつもり。一年一年。いや一日一日に最善を尽さないことにはなんかもやもやして楽しくない性分なんでね。

こうしてトレーニングさえみっちりやっておけばまた夢も生まれる。「連続二十勝」これはもちろんやりたいけど、電車のなかで激励してくれたフアンの人もいうように「トラ年とタイガースと優勝」こう結びつけてみたいものだ。とにかく一度でいいから甲子園で選手権がやってみたい。プロ野球での優勝の感激はどんなもんか味わってみたいですな。関大のころ大学選手権で優勝した思い出があるが、実に愉快だった。そのためにはやはり「一発に置く村山」などといわれないうにしながら……。プロ入り四年目。そろそろフアンのみなさんに冷や冷やしていただかなくてもいいピッチングをしてご期待にこたえたいものです。どうかよろしく。

(阪神タイガース投手)



嗚呼！あれ四十才

宮崎修二朗

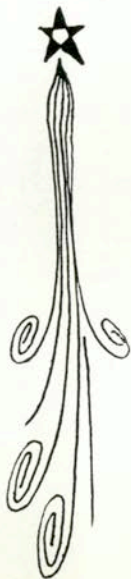
グレコ、よかったわ。瞳を輝かせて、その女性はいったものでした。どれどれ、目録をのぞきこむと、これよこの「ヨクミセル女」がよかった。ふーん。しかし、変やないか手拭で胸のところ押えて、ちっとも見えへんがな……と、よくよく作品名をみたら「浴みせる女」とありました。嗚呼！中年男はイヤだ。イヤだ。薬師寺を訪れた日のことです、団体客でこつた返す境内を、そそくさとかきわけて、三重塔の下に立ち、フェノロサが凍れる音楽」と評した水煙に見惚れておりましたら、うしろで二三名の高校生が喋っているのが耳に入りました。何や、ちっとも読まれへんがな。こっちに立札があるわ。ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なるひとひらの雲と立札の楷書の文字の方を読んで、この墓石のおっさん何やね。と一人が訊ねるとあほっ、知らんのか、あの要領のええやっちゃんいか。あ、そうか。この会話の意味が理解できたのは、五分ほど後のことです。宇治川先陣争い佐々木高綱の墓が、薬師寺に建ったという珍説が、そこにはあったわけで……文学碑ブームも所詮、新しい世代には無縁でというわけ。

「四十二シテワクワク、五十二シテ立タズ」なんていうことば。まずは四書五経を噛った老齢の方だと、違う

よ、「三十二シテ立ち、四十二シテ惑ワズ」だと訂正して下さるだけ、その面白味がわかって貰えませんか。

ところが新しい世代の方ですとワクワク、立タズか？ニタリ、さもありませんと笑って下さいませ。しかし孔子のおことばとの関連については全然お解りいただけません。二つの世代の「峽」（はさま）にいる悲しさと、安心感がしみじみとこたえる年令になりました。そんな男をつかまえて、倅めはからかいます。神戸の中心はどこやねえん？さあて、ね。地図を拡げて思案投首、の最中倅めけらけらと打笑い、楠公さんやないか「嗚呼忠臣楠氏の墓」。あほ、楠氏やない、楠子や。せいぜい、それくらい旧い役に立たぬ、ガクしかない親父です。神戸に渡られへん橋があるん知っとるか。知らんな。この前の水害で流れたんか？アホ、棧橋やないか。渡り切ったら、海に落ちる。嗚呼？愚かなる父よ。ほんなら神戸っ子と江戸っ子と、どう違う！違うやないか。そう思うやろ？しかし同じやねん。なんで？神（こう）戸（べ）と江（こう）戸（べ）やないか。てな、げいとうはしかし彼らにはできません。

（神戸新聞出版部長）



◆読者サロン◆

・先月号(12月)の表紙のナンテすてきなこと。いつも「神戸っ子」の表紙のセンスのよさに感心してるもの、なかでも12月号の楽しかったこと。最高じゃない?

ゲストに黒木さんを招ねいての「宝石のアレコレ」もよかったし、私たちにとっては憧れ(?)の橋サンの対談には嬉しくなりましたほんとうにXマスにふさわしいプレゼントでしたワ。ありがとう。こんどは同じ神戸出身の歌手佐川ミツオさんや神戸一郎さんたちのグラビアか対談もとりあげてくださいね。

(神戸垂水区・天野昌子)

・神戸出身の江戸川乱歩賞作家、陳舜臣氏の作品がついに登場しましたな。いつ出るのかと実は待ってたのです。なぜって陳氏は生粋の「神戸っ子」なんですからな。受賞作品「枯草の根」を読んで僕はいっぺんに陳氏のファンになったんです。一回切りでなく、神戸の作家としても大いにこれからも「神戸っ子」誌上をにぎわしてもらってください。期待していますよ。

(神戸生田区・長谷洋一)

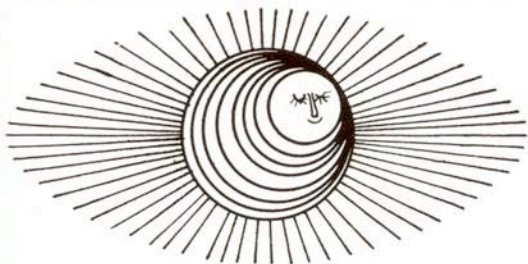
・神戸だからえがく夢——海洋博物館の話は前回の街のまん中のパティ同様、イカス案ですね。佐々木侃司さんの絵はいつものように拝見させていただきます。ていねいな筆あとに佐々木氏のお人柄がしのべそう。これからのたのしい絵をみてください。

(神戸生田区・三原貴男)

・随想「神戸に住むしあわせ」で、懐しい市来崎のり子さんが、お元気でいらっしやることを知り喜んでます。

思いがけない神戸の友人のプレゼントといっしょに入っていた貴誌を拝見して、いろんな昔の神戸のことが思い出されました。ほんとうに神戸の香りがすみずみまでしみこんだそんな感じのする本ですね。映画戯評を書いてらした名村さんはたしか二年ほど下にいらしたはず。福富さんは大先輩、執筆者の方も欽松クラブのメンバーの方が多いのですっかり感激です。みなさんのご活躍を期待しておりますワ。

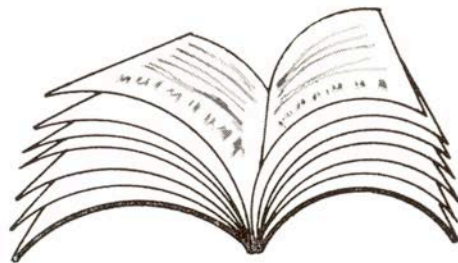
(東京渋谷区・旧奥一卒生)



賀 正

太陽製版KK

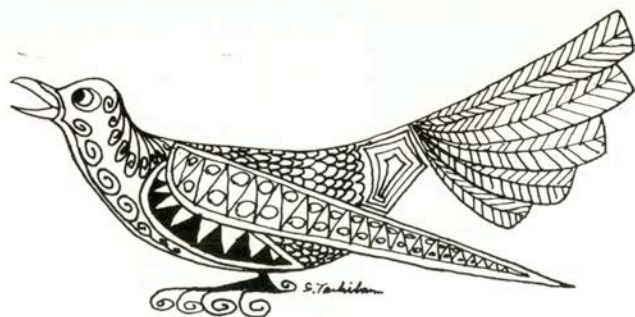
神戸市兵庫区淡町一丁目高架3号 / TEL 製版部 ⑤ 0558・0586
写植部 ⑥ 4416



頌 春

三急出版

TEL ⑥ 0897



編集後記

・あけましておめでとうございませう。威勢のいい「トラ年」の62年「神戸っ子」は元気に心構えも新たにスタートです。どうぞ本年もよろしくご指導くださいますように……。

・新春のプレゼントは、司馬、白川、竹中氏のトリオで贈る「新春放談」です。珍らしい顔ぶれに話題も豊富、ナマでお聞かせしたいほど。大先輩たちのお話を聞いて「神戸っ子」の不勉強さがしみじみ悲しくなりました。みなさん大いに応援してくださいね。

・アンケート特集「神戸とわたし」はずい分とたくさんの方からのご協力をいただきました。この特集も「新春放談」同様、喜んでいただ。けるんでは——と期待しています。

・シア君の晴れ着姿、かわいいでしょ。このグラビア真、お正月風景プラス神戸ならではの……という意図を抜んでいただければうれしうです。シア君は、「僕も神戸っ子」(NO2)で茶目ッ気たっぷりな名タレントぶりを発揮してくれたトルコ少年です。

表紙の言葉

パリの近郊には、昔印象派や印象派後期の画家が好んで描いた美しい景色がずいぶんたくさん残っている。ゴッホの墓が近くにあるというポントワーズや、表紙の寺院(一昨年秋、渡仏した時の作品)があるモレーもともに「写生地」として今も多くの画家たちに愛されている。

小磯良平(新制作)

神戸の女性

神戸女学院大学英文科2年生の竹内慶子さん、英語は私設ガイドが結構いけるという調子のいいもの。港に入る船を背景にするとエキゾチックを創りだしているという感じ。テニスもやればハワイアンのおウクレレも楽しむというモダンな神戸っ娘です。

撮影 杉尾友士郎

・今月は企画の都合で「花時計」「レリーフ」「うまいものコーナー」は休載しましたが悪しからずとこで月日の発つのは早いもの。一年前の今頃は——そうそうオトノ気分もよそに創刊号を出すのに走りまわっていました。そしてアレから一年の今は——やっぱり多忙、でもうれいことですよ。今年も元気に走り続けましょ。

(1)

月刊「神戸っ子」案内

☆ 月刊「神戸っ子」を毎月御購読下さいます方、神戸を離れているお友達にプレゼントなりたい方は編集室宛にお申込下さい。6ヶ月分・500円(送料共)

☆ 誌上紹介の各神戸の銘店にはお客様へのサービス品として「神戸っ子」がおかれています。☆「神戸っ子」をお求めのさいは左記の木屋さんでどうぞ。

文洋堂・国際会館1階
海文堂・元町3丁目
漢口堂・京町筋角
日東館・大丸前
流泉書房・センター街

月刊「神戸っ子」新年号・発行/S37,1,15・編集/五十嵐恭子・発行/小泉康夫
編集室/神戸市荻合区御幸通8丁目9ノ1 国際会館1階・TEL 297037・頒価70円

徳仁に記々と
今世に記々と

右表百官初古福中直水田出能皇自院古後久寸小宮川金火小關國博
杉解始地井出富西不井中杉川將川本林院保林院西井廣部崎並木
了殿者高鹿芳 水通總孝嗣二 喜本倉芳良正 元々具押真还重
藤三雄二男夫美勝郎七郎不三郎原勝兼二部次平治英彦 一

環境衛生は

ゴミ箱から！

フタがキッチリしまるので、ハエや
ゴミブリがはいりません。ツギ目がないから洗たくもOK。ポリペールは衛生的なゴミ容器です。神戸の環境衛生は清潔なゴミ箱からおはじめください。



小売価格
1800円

硬質ポリエチレン製
新家庭にぜひお備え下さい

セイスイ

ポリペール

プラスチックの積水化学

完全自動による 霜のつかない 電気冷蔵庫誕生！

霜取りが自動的にできる、わが国最初の
ジェットサイクル装置付きです。運
転率によって、周期的に自動除霜をし、
排水した水を蒸発する装置です。また、
SMタイプ・コンプレッサーの性能は、
世界一級の折紙付き。内容積は、10%
(ビール13本分)のアップです。

ご家庭用標準型/全内容100リットル
NR-100Z型

現金 58,000円

定価 61,000円



電気冷蔵庫のお求めは
お近くの行き届いたアフター・サービスの
ナショナル加盟店で

